

研究主題

「豊かな学びで個を育む」

1. はじめに

(1) 研究の経過

本校では、平成15年より3年間、『「学びを拓く」生徒の育成』を研究主題に掲げ、研究実践を行ってきた。生徒に身につけさせたい力として、①主体的に問題を解決する力、②自己を表現し、コミュニケーションする力、③自己の「学び」を自ら振り返る自己評価の力の3つの力をとりあげ、学習活動を通してこれらの力を定着することができれば「学び」は拓かれると捉えてきた。この3つの力を支えるものが、教科学習の基礎・基本である。そこで、私たちは、「基礎・基本の定着を図る教科指導のあり方」を副主題とし、各教科における基礎・基本の明確化、基礎・基本の定着をめざした指導の工夫・改善、基礎・基本の習得をめざした学習活動の評価などに取り組んできた。その結果、教科によって多少の差異はあるが、次のような成果がみられた。

- ・主体的に学習を進めていく生徒が多くみられるようになった。
- ・自分の考えを的確に、分かりやすく筋道立てて相手に伝えようとする生徒が増えてきた。
- ・自分の可能性や変容を実感し、さらに良さを伸ばそうとする生徒が多くみられるようになった。

(2) 社会や教育の動向

子どもの学力の現状については、平成15年に実施された国際的な学力調査の結果から、全体として国際的には上位にはあるものの、成績中位層が減り、低位層が増加している。また、読解力が大幅に低下するとともに、記述式の問題について正答率が低下する等の課題があげられている。また、平成17年度4月に公表された教育課程実施状況調査においては、全体としては学力の低下傾向に歯止めがかかったものの、国語の記述式問題や中学校数学などに課題が生じている。

また、子どもを取り巻く環境が大きく変わり、社会との関係が希薄になりつつある中で、子どもたちがかかえる課題としては、学ぶ意欲や生活習慣の未確立、後を絶たない問題行動、規範意識や体力の低下等があげられる。さらに21世紀は、国際化がより一層進み、日本人が世界各地で活躍する場面が多くなると予想される。

こうした現状を踏まえ、平成17年2月に文部科学大臣から、21世紀を生きる子どもたちの教育の充実を図るため、教員の資質・能力の向上や教育条件の整備などとあわせ、国の教育課程の基準全体の見直しについて検討するよう、中央教育審議会に対して要請があった。その中で「人間力向上のための教育内容の改善充実」や「学習内容の定着をめざす学習指導要領の枠組みの改善」などの検討が求められている。

このような状況にあって学校教育の果たすべき役割は、子どもたち一人ひとりの人格の形成をめざし、個の可能性を開花させるための基礎を培うことである。また、世界に貢献できる国際性を身につけた人間を育成するために、人類の智恵や文化遺産を肌で学び、グローバルな発想や創造性を伸ばすとともに、コミュニケーション能力の育成や異文化理解の促進に努めなければならない。

2. 研究主題について

(1) めざす生徒像

本研究を進めるにあたって、本校生徒の実態を踏まえた上で、私たち教師が育てたいと願っている生徒像を次のようにまとめた。

① 自分の興味関心を大切にし、何事にも意欲を持って取り組む生徒

自分の興味関心のある学習活動に生き生きと取り組み、直面する課題や困難に立ち向かっていき、自己実現に努めようとする生徒の育成。

② 自分の思考を大切にし、自己の学びを追究する生徒

他者と関わりながら、自分なりの考えや表現を作り上げ、自分の学びへと深めていくことのできる生徒の育成。

③ 自分自身を大切にし、自分が関わる他者、社会、自然との共生を大切にする生徒

他者と共通の規範意識を身につけ周囲の人々と協調しながら、社会の一員として生活を送ることのできる生徒の育成。

④ 異なる考えや文化を認め、異なる文化を持った人々と共生しようとする生徒

広い視野を持ち、多様な文化、生活様式、習慣、価値観を尊重し、他者とも共に生きるために、相手の立場を尊重しつつ、すすんで国際社会に貢献できる生徒の育成。

⑤ 自分や自国の良さを理解し、何事にも積極的に関わろうとする発信力のある生徒

自分や日本の生活・文化・歴史・習慣を正しく理解し、自分の考えや意思を表現できる生徒の育成。

(2) 研究主題とかかわって

「豊かな学び」をどのようにとらえるか。

私たちは研究主題に掲げた「豊かな学び」を、めざす生徒像に照らし合わせて、「個性を拓く学び」、「社会につなぐ学び」、「世界と結ぶ学び」の3つに視点をあてて考えていくことにした。

「個性を拓く学び」とは、他者とかかわりながら、自分なりの考えや表現を作り上げ、自分の学びへと深めていくことのできる資質や能力を培う学びである。特に、特色ある選択教科、必修教科、総合的な学習の時間において、自分の可能性を発見させ、個性を伸ばさせたいと考えている。

「社会につなぐ学び」とは、他者と共通の規範意識を身につけ、周囲の人々と協調しながら、社会の一員として生活を送ることのできる資質や能力を培う学びである。特に、学校行事や総合的な学習の時間における様々な体験や活動を通して、人としての健全な倫理観を身につけ、主体的に判断し、適切に行動できる生徒を育てていきたいと考えている。

「世界と結ぶ学び」とは、国際社会において、「自ら成長しながら」他者とも「共に生きる」ため子どもにとって必要な基礎的な資質や能力を培う学びである。そのために国際性を身につける体験的な学習や課題学習などをふんだんに取り入れ、広い視野を持ち、異文化を理解し、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現できるための外国語を使ったコミュニケーション能力の育成を図ってきたいと考えている。これらの3つの学びでつきたい力は以下の通りである。

個性を拓く学び

社会につなぐ学び

<つきたい力>

- 他とのかかわり合いや学び合いを通して、自己の学びを深められる資質や能力。
- 学習の中で得た見方や考え方を、他とのやりとりを通してより豊かなものとし、自ら表現・発信する力。
- 思考力を高め、直面する課題や困難に立ち向かっていく力。
- 自己の学びを正しく評価し、内省を生かして自己実現に努めていこうとする力。
- 他人と協力し、社会と共生しようとする態度や能力。

世界と結ぶ学び

<つきたい力>

- 異なる考えや文化を理解し、尊重しようとする態度や能力。
- 異なる文化を持った人々と積極的に共生しようとする態度や能力。
- 自国の言葉で自分の考えや意思を表現できる力。
- 相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現できるための外国語を使ったコミュニケーション能力。

佐伯胖氏は、『「学び」が常に「学ぶもの」の側から内なる「問いかけ」の活動によって先導されていく点を最も重視すべきであり、きわめて具体的な個々の学習内容に沿って、ひとりひとりの子どもの中にもどのような問いかけが発せられるか。知識がどのように身につけられ、どのような枠組みの中で解釈されていくのかを明らかにしなければならない。』と述べている。（「学びを問い続けて」2003）

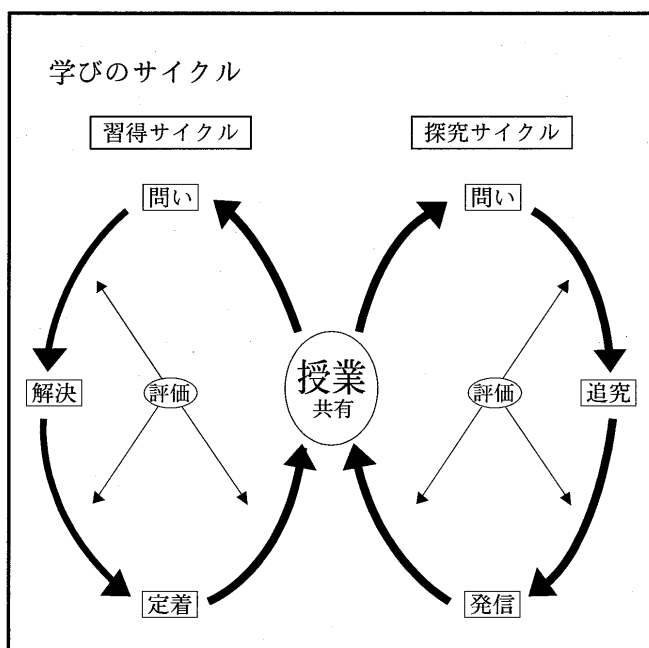
このようなとらえから「学び」とは、「問い」を解決していくために、仲間との相互的活動や自己内対話（自問自答）を通して、「問い直し」を続けることにより学習を進めていく状態であると考えられる。

この「問い」とは、学習を進める中で生じる様々な疑問や課題である。生徒は、疑問や課題が生じることにより、知的好奇心を持ち、意欲的に学習を進めることができる。そして、既習の知識や技能を確認しながら、その疑問や課題の解決を図る中で、発展的な「問い」や新たな「問い」を生むことになり、この「問い」の高まりが学習をさらに追究し、発信していこうとする個の成長につながると考える。

私たちは、今まで『学び』を「知識や技能の習得だけでなく、興味、関心や意欲、感性、思考や判断の深まりといった資質や能力をも含めた個の成長である。」ととらえてきた。子どもたちに確かな学力を身につけさせるには、「知識や技能」だけを教えるのではなく、子どもの「関心・意欲」を高めながら、問題を解決したり、追究したりする授業の中で「思考力・判断力・表現力」も高めていかなければならない。すなわち知識や技能という記憶中心の能力と、学習意欲を核にした自主的な問題解決という思考中心の能力が重要なのである。そこで、『学び』を再度見直し、①基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる学び（習得）と②知識・技能をもとに、それらを活用して課題を追究し、発信する学び（探究）の2つのサイクルで今後とらえていくことで、より明確化したいと考えた。

この2つのサイクルは、相互に関連しあって生徒の力を伸ばしていくものと考えている。知識・技能の定着が探究活動を促進したり、探究活動が知識・技能の定着をより深めたりするのである。

また、疑問や課題を明らかにしていき、自己の学びを振り返ることで、自己の変容を認識し、学んできたことの価値に気づき、自らの学びに成就感や達成感を味わうことができる。成就感や達成感を味わうことができれば、自己の学びに自信を持ち、さらに挑戦してみる意欲もわき、そのことが自分の可能性をどんどん広げていくことにつながると思われる。



(市川伸一氏の「学習の2サイクルのバランスとリンク」参考)

「習得サイクル」

「問い」を持って授業にのぞみ、わからなかったことを授業で理解して、さらに復習で定着を図る。知識や技能をしっかりと獲得する。

「探究サイクル」

授業の中での色々なテーマに触発され、「問い」をもち、知識や技能をもとに、自分でまたは他者とともにより上げ追究した結果を、レポートやポスター等で発信する。それらを仲間で共有し、討論やアドバイスを通じてさらに追究を深める。論理的思考力や論理的表現力を獲得する。

3. 本年度の研究内容とその方法

豊かな学びの中で、生徒が「問い」を持って、主体的に学習を進めていけば、基礎的、基本的な知識・技能がしっかりと身につく、それらをもとに困難な課題にも意欲的に取り組み、追究し、発信する力が培われ、個の成長につながると考える。そこで、本年度は以下の2点に絞って研究を進めていくことにした。

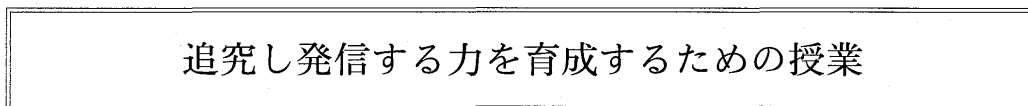
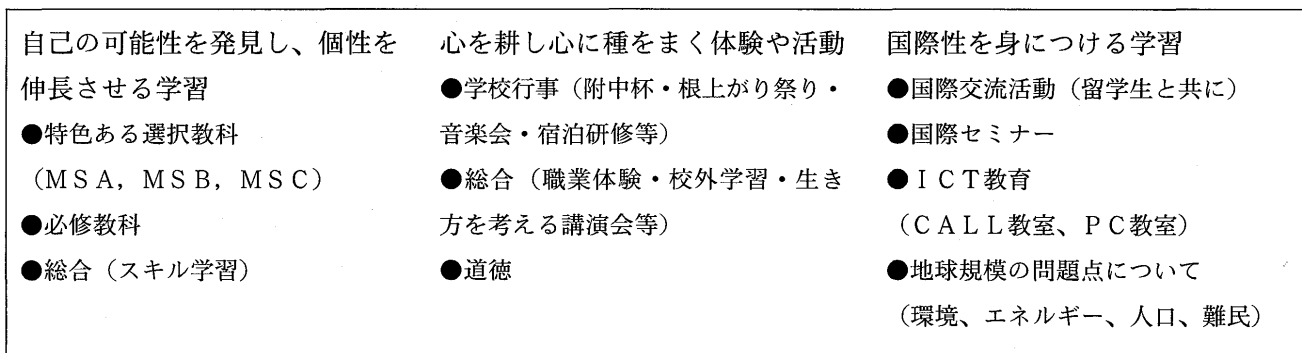
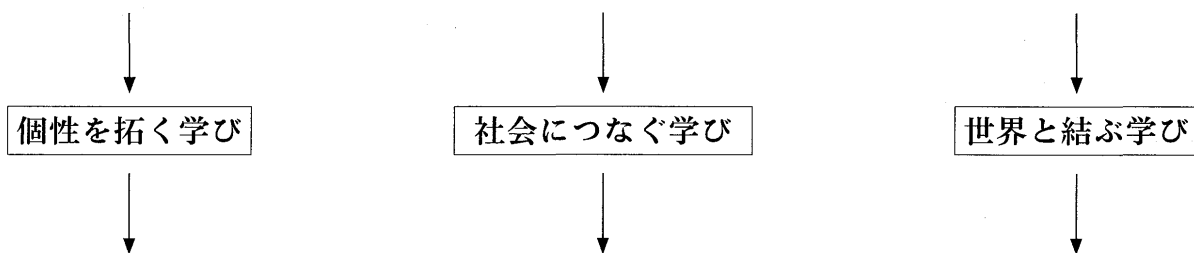
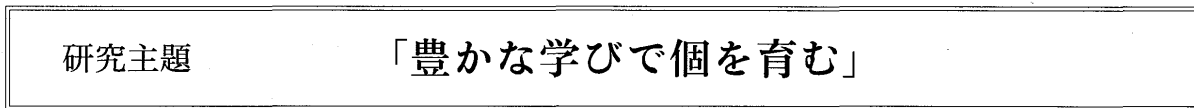
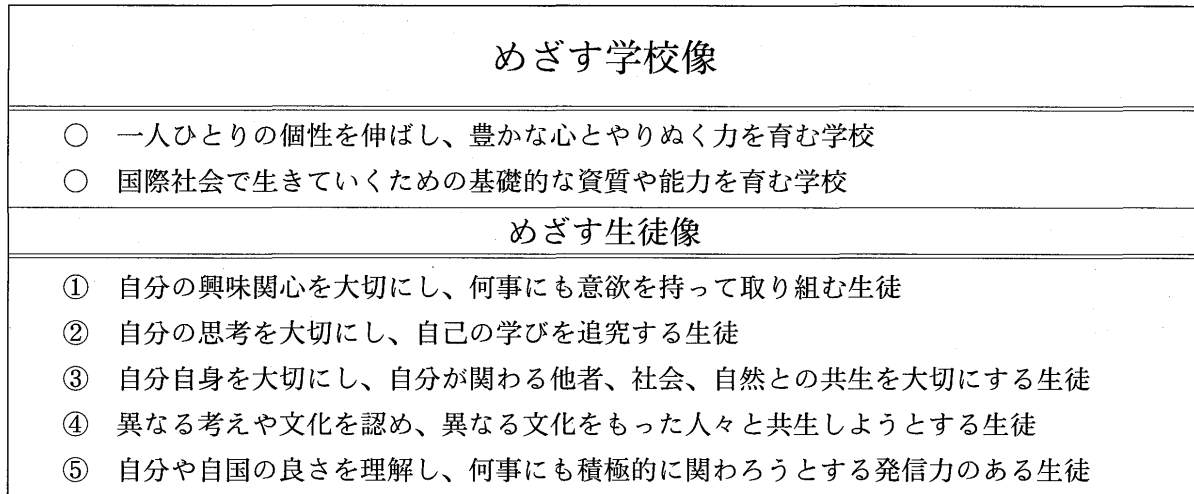
研究の視点

- (1) 教科で『豊かな学び』（「個性を拓く学び」、「社会につなぐ学び」、「世界と結ぶ学び」）を明らかにしていく。
- (2) 教科で身につけるべき力の定着を図るために「習得」と「探究」に着目した授業の工夫を図る。

【参考文献】

「学び」を問いつづけて -授業改革の原点- 佐伯胖 小学館 2003
 「学びへの誘い」 佐伯胖/藤田英典/佐藤学 東京大学出版会 1995
 悠 (2005 1月号) 新春特集 子どもの「人間力」を拓く
 「人間力」をはぐくむ学びとは 市川伸一 ぎょうせい 2005
 学力低下論批判 加藤幸次・高浦勝義 黎明書房 2001

研究構想図



個性を拓く学び

自己の可能性を発見し、個性を伸長させる学習



選択教科

個性を拓く学び


自己の可能性を発見し、個性を伸長させる学習



必修教科

個性を拓く学び

自己の可能性を発見し、個性を伸長させる学習



**総合的な学習の時間
(スキル学習)**

社会につなぐ学び

生き方を考える講演会

職場体験

石田裕子さん

石田裕子さん

総合的な学習の時間

社会につなぐ学び

心を耕し心に種をまく体験や活動

修学旅行(信州)

宿泊研修(1年生)




学校行事

社会につなぐ学び

心を耕し心に種をまく体験や活動

附中杯

校内音楽会

根上がり祭








学校行事

世界と結ぶ学び

国際性を身につける学習

留学生と会い

数本元誠さん

国際セミナー

世界と結ぶ学び

ICT教育

地球規模の問題点
環境、エネルギー
人口、難民